

令和3年度 中間評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

評価項目	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標 (小項目5項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> ・国立病院機構本部（以後、本部）より、中長期的な視点にたった学校評価の基準が示され、効率的・効果的な学校運営方針・活動内容について計画的に活動している。 ・現状においては、本校の特徴である①恵まれた実習施設、②看護実践者を育成する特徴ある科目設定などを社会にアピールすることで大学との差別化を図っている。 ・「2022 共通カリキュラム」においては卒業認定の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）、入学者受入れの方針（AP）を明文化した。次年度の学生便覧、シラバスで示す予定である。 ・学生には入学時新入生オリエンテーション、実習オリエンテーション、就職についてのオリエンテーションなどが必要に応じて説明を行っている。 ・今年度も COVID-19 の影響により、入学式・戴帽式での保護者会を開催できなかった。学生の状況に応じて個別に保護者と連携を図っている。学年担任が保護者からの相談窓口として対応するなど学校と保護者の連絡体制の強化を図っている。 ・当校は令和7年3月で閉校となる。令和4年度の入学生をもって募集停止であり、在校生が国立病院機構および社会に貢献できる看護実践者に成長できるように実習施設と連携し、看護基礎教育を行っていく。 ・看護専門職に求められる専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力についてシラバスに記述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的、DP、CP、AP を示し、学生にもわかりやすく学生便覧等に示す準備ができており、適切である。 ・COVID-19 の影響により学生や保護者と直接に関することは難しい状況にあるが、ホームページなどを利用して周知することができている。 ・シラバスに記述している「看護専門職に求められる専門性、自律性、倫理性、判断力、実践力」や、教育目標からの「コミュニケーション力、倫理的配慮、患者の状態に合わせた援助計画」などの文章が、シラバスや学生便覧のどこに記載されているのかわかりにくい、検討をお願いする。
II. 学校運営 (小項目8項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の指針に沿った組織体制をとり、毎年設置者および病院運営方針に則って学校の運営方針を定めている。 ・COVID-19 の影響により、実習時期や、カリキュラム変更があるがその都度実習施設、外部講師との調整を図り、学生へ周知を行っている。 ・学生の実習記録について、昨年度から実習記録を自宅で記入できるように体制を整備した。千葉医療センターの個人情報の持ち出しに係る申請書の提出のもとに実施している。現在トラブルは発生していない。 ・実習に関連した情報管理や安全管理に対する学生の教育について、実習担当が系統立てて実施している。これを継続していくために、実施時期や内容をマニュアル化して学習の積み上げを図っていく。 ・業務を集約してワーキンググループ活動に変更したことや、HOSPnet の導入により、教職員への連絡等情報提供はメール等を活用できており、ミーティングや会議の時間短縮等、業務の効率化を図っている。 ・時間外勤務の削減にむけ、職員一人ひとりが現在どのような業務を行っているかわかるようメールでの情報共有を行い、業務の進捗状況を把握している。 ・ハラスメント対策については、教員学習会、サンキューカードの実施など取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的、事業計画に沿った運営方針が策定されている。 ・実習中の情報管理や安全管理について、学生へ説明し協力を得ている。実施時期や内容のマニュアル化を進める。 ・時間外勤務の削減に向けた意識を持ち続けて、引き続き努力をお願いする。 ・ハラスメントに関しては、学生も含んで検討をお願いする。
III. 教育活動 (小項目16項目)	評価 3.8	評価 3.9
	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は対面型と Zoom による同時双方向型とビデオオンデマンド（VOD）型の講義を組み合わせて行っている。前期は Zoom による授業は、教員も学生も授業に慣れず学習効果が得られているか判断しづらかった。教員側は、一方的な講義。チャットや質問などをとおして双方向のやり取りがある授業を行うことが課題である。学生側は、リラックスして聴ける反面、集中が途切れやすく、重要なところを聞き逃すこともある。オンライン授業の試験対策は課題である。VOD は、対面授業、Zoom 授業も同時進行で進むため、計画的に行いにくかった。 ・臨地実習では COVID-19 の影響で病棟実習時間の短縮や 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業の視聴や課題の提出について、計画的に実施することができない学生へは、引き続きフォローアップをお願いする。 ・臨地実習が短縮になったことにより、自己学習時間が増えた強みを活かして、振り返りや知識の定着に役立ててほしい。 ・実習前技術練習の場所と時間

	<p>学内実習に変更となった。学内実習では、領域毎に患者を設定しシミュレーション教育を取り入れたりすることでより実践に近い設定にし、学生個々の学習能力を考慮しながら指導してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の援助技術に関する技術練習は、3密を避けるために担任が、放課後など空いているところに分散して練習できるように調整している。今後は、1年生の技術練習や2年生の実習前技術練習が重なるので、場所や方法の検討が必要である。 4月から教員間でアクティブラーニングの学習会を開催し、教育の方向性や教育方法を共通認識した。 教員の研究授業は、全教員年1回実施予定である。 	<p>の確保は工夫をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングの学習会を開催し、努力している。また、授業研究も実践し、教育方法の向上に努めている。
IV. 学修成果 (小項目 5 項目)	評価 3.0	評価 3.2
	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援担当者が中心となり、小論文対策・面接試験対策についてオンデマンドにより実施した。学生の状況に合わせて、必要時、対面での小論文指導・面接指導を実施した。希望する施設の内定を受けられない学生は10名程度となった。学生個々の特性に合わせて就職先を決定できるよう引き続き支援を行う。 国家試験の合格率は令和2年度98.7%であり100%に達することができていない。1・2年生の成績下位者へ今後の学習が計画的に進められるよう面接を実施した。3年生は国家試験対策を4月から実施し、定期的な模擬試験の結果から抽出した強化メンバーを中心に長期休暇中はオンラインを活用した国家試験対策を実施した。また、担当教員を決定し、学習計画を立て、長期休暇中に計画的に学習が進められるよう学生個々の状況に合わせた指導・助言を行った。 4月～9月までに退学した学生は、3学年通して0名である。成績不良者や欠席が多い、課題の提出が進まない学生へは、担任が面接を行い継続の意思を確認し支援している。学生の学習状況を踏まえ、個別性に合わせた指導を行う努力をしている。 令和2年度の卒業生に対し、ホームカミングデイを開催予定であったが、感染拡大に伴い開催ができなかった。県内施設に就職している卒業生が多いことから、実習指導等を通して、各施設からの情報提供を受けるなどして卒業生の現状を把握できるようにしていきたい。 1年以内での退職者が増加傾向にある。対策として社会人としての基本的な姿勢や仕事への取り組み方など、1年生の時から機会を見て話を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の状況を見て対面での指導を実施し、丁寧に対応している。内定を受けていない学生の就職支援をお願いする。 成績不良や欠席が多い学生の支援を引き続きお願いする。
V. 学生支援 (小項目 10 項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援プロジェクトチームを中心に進路・就職に関する支援の企画を立案し運営している。今年度はWebを用いて小論文対策と面接対策の講義を配信し、希望者には個別対応を行い就職試験に臨んだ。また、Webを用いて面接練習を行い、実際の場面を想定して練習できるよう支援した。今後、就職内定未決定者に対する支援と2学年への支援内容を検討していく。 自治会活動などは一部Webを用いて活動し、3学年交流の機会を設けている。 COVID-19感染拡大防止のため、大教室を40名定員とし、遠隔授業ができるように設備を整えた。講義に差し支えないよう教材教具の一斉点検と台帳作成を行った。定期的に点検を実施していき、必要な教材の購入、修理を行っていく。 例年ホームカミングデイを開催し、卒業生のリフレッシュを図っていたが、今年度は大防止の観点から未実施となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されている。就職が内定していない学生への支援をお願いする。 課外活動は看護に直結する学習以外で自己の力を発揮できる機会となるため、学生の自主的活動の支援を引き続きお願いする。 学生生活全般に及んで事細かい部分まで配慮した対応を検討、実施している。 COVID-19の影響によりホームカミングデイなどは開催できていないが、必要に応じて相談にのるなどの努力をしている。
VI. 教育環境 (小項目 3 項目)	評価 3.3	評価 3.3
	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染防止対策として、教室あたりの人数の制限や、オンライン授業を増やしている。後期も、COVID-19の感染対策を図り、安全、安心な学習環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染対策を図り安全、安心な学習環境の整備に努めている。 防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学

	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染対策として、訪問看護ステーション、保育園、介護老人保健施設の実習は学内に変更している。また、感染状況に応じ、病棟実習と学内実習を併用している。学内実習では、視聴覚教材を活用し、シミュレーションを取り入れ、学習体制を整えている。 入学時の防災訓練に関しては、学内の消火・防災設備の確認を個人で実施したことにより、主体性も養われている。防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学生に配信し防災についての意識付けを行った。 	生に配信し防災についての意識付けを行ったことは、とてもよい。
VII. 学生の受け入れ募集 (小項目 3 項目)	評価 4.0	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会をオンラインで高校生対象を5回、社会人対象を1回開催する。指定高校に訪問し、閉校のお知らせと共に入学試験案内、学校説明会案内を実施した。学校説明会は、次年度が最後の入学生となるため人数制限を設け、推薦指定校高等学校や入学実績のある高等学校に案内を出し、ターゲットを絞り開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 募集活動は積極的に適正に実施されている。
VIII. 財務 (小項目 4 項目)	評価 3.5	評価 3.5
	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減のための学生参加型の活動を推進し、学生も含めた経費削減の意識改革を行い、成果をあげている。 千葉県補助金については今年度も要件を満たせるように、学生の進路相談を行っている。 財務監査については年1回国立病院機構関東信越グループが会計監査に入っており適切に行われている。また、月次決算について報告を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる授業の導入は仕方なく、有料版導入は学生及び教員にとって負担が軽減され、安定して効果的な学習ができています。経費は負担であるが、今後も有効な活用に努める。
IX. 法令等の遵守 (小項目 5 項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19による感染拡大防止対策として自宅学習や学内実習への変更について、千葉県を通して周知される文部科学省・厚生労働省より示される学習内容・方法を遵守し実施している。 職員は国立病院機構の個人情報の管理規程、倫理規程に基づき対策を行っている。また、学生に対しては学生便覧、実習要項等に明記されその都度指導を行っている。実習記録については千葉医療センター個人情報取り扱いの規定に則った申請書等の運用している。 学生個々のメールアドレスを整備し教員のメールアドレスを周知したことで、学生とのコミュニケーションツールを一本化し意見を伝えやすい環境を整えた。 教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を昨年度よりWEB会議に変更し年2回開催を計画し、関係者の視点からの意見も反映できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護については、教職員、学生ともに情報管理対策がとられている。 保護者に直接接する機会が少なくなっているが、引き続きメールなどを活用し、自由に意見が言えるように努めてほしい。 自己評価を実施し、課題を明確にして、改善に向けて運営しされている。
X. 社会貢献・地域貢献 (小項目 3 項目)	評価 3.3	評価 3.3
	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施していた公開講座や高校生を対象としたインターンシップは、covid-19感染予防対策として中止した。次年度は、感染予防対策をとりながら実施できる方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後WEBなどを活用した貢献方法を期待する。

1. 質の高い学生の確保

質の高い学生の確保に向けて2020年度より入学試験体制の見直し後の受験者数は、2020年度172名、2021年度216名と増加となっている。このことは、公募制入試や特に一般二次のB日程を設定したことが大きく影響したものと考えられ、受験者数の確保につながっている。後期もCOVID-19の感染状況をみながらではありますが、受験者の確保に向けて引き続き学生募集活動（パンフレットの作成・配布、説明会の実施など）を充実させ、受験生に対する当校への関心を高めることが重要であると考えます。

2. 学校経営基盤の安定化

COVID-19の影響により、オンライン授業のための設備投資は、学習環境を整えるためには必要な準備であったと考えます。今後、COVID-19が収束してもオンライン授業の活用だけでなく、遠方の高校生へのWeb学校説明会やWebインターンシップなどの活用ができ本校を知ってもらい、質の高い学生の確保にも期待できると考えます。引き続き日々の業務の中で経費削減に努め、学生への意識啓発も行い、経営基盤の安定化に繋げていく努力をお願いします。

3. 教育内容の質の向上

国家試験合格率に向けて3年間の支援体制は構築されており、試験対策も検討されている。計画的に進められない学生に対してどのようにアプローチしていくかは難しいところであるが、zoomなどを活用してモチベーションの維持につながるような工夫が必要と考えます。3年生は、これから追い込みの時期に入ってきますので、引き続き対応をお願いいたします。4月からZoomによる同時双方向型遠隔授業を取り入れ、対面型と同時双方向型とビデオオンデマンド（VOD）型の講義を組み合わせることで、時間が限られているという教員側の問題や計画的に授業についていけない学生側の問題など課題が見えてきている。後期は、授業についていけない学生に対しての支援の強化をお願いいたします。また、学内での看護技術練習の場所の確保や方法の検討は引き続きお願いいたします。

4. 教員の教育力・管理能力の向上

学会、研修などに参加し自己研鑽が行われている。後期も参加可能な時は積極的に参加し、教員の指導力育成など資質向上のためにお願いいたします。また、千葉県教員養成講習会の講師を担ったことは、自身の日頃の教育を振り返る機会ともなり教育力の向上が期待できる。今後も看護教育界のためにも尽力いただきたい。

5. 学生支援の強化

COVID-19感染予防のため、Webを用いて小論文対策と面接対策の講義を配信し、希望者には個別対応を行い就職試験に臨んでいた。また、Webを用いて面接練習を行い、実際の場面を想定して練習できるよう支援していた。就職内定未決定者に対する支援は早急をお願いします。後期は、2年生への就職説明会の開催が予定されている。

令和3年度 最終評価

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

評価項目	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標 (小項目 5 項目)	評価 3.8	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> 「2022 共通カリキュラム」においては卒業認定の方針 (DP)、教育課程編成・実施の方針 (CP)、入学者受入れの方針 (AP) を明文化した。次年度の学生便覧、シラバスで示す予定である。 学生には入学時新入生オリエンテーション、実習オリエンテーション、就職についてのオリエンテーションなどで必要に応じて説明を行っている。 今年度も COVID-19 の影響により、入学式・戴帽式での保護者会を開催できなかった。学生の状況に応じて個別的に保護者と連携を図っている。学年担任が保護者からの相談窓口として対応するなど学校と保護者の連絡体制の強化を図っている。 当校は令和 7 年 3 月で閉校となる。令和 4 年度の入学生をもって募集停止であり、在校生が国立病院機構および社会に貢献できる看護実践者に成長できるように実習施設と連携し、看護基礎教育を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念、教育目的、DP、CP、AP を示し、学生にもわかりやすく学生便覧等に示す準備ができており、適切である。 COVID-19 の影響により学生や保護者と直接に関することは難しい状況にあるが、ホームページなどを利用して周知することができている。
II. 学校運営 (小項目 8 項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> 設置者の指針に沿った組織体制をとり、毎年設置者および病院運営方針に則って学校の運営方針を定めている。 COVID-19 の影響により、実習時期や、カリキュラム変更があるがその都度実習施設、外部講師との調整を図り、学生へ周知を行っている。 学生の実習記録について、昨年度から実習記録を自宅で記入できるように体制を整備した。千葉医療センターの個人情報を持ち出しに係る申請書の提出のもとに実施している。現在トラブルは発生していない。 実習に関連した情報管理や安全管理に対する学生の教育について、実習担当が系統立てて実施している。これを継続していくために、実施時期や内容をマニュアル化して学習の積み上げを図っていく。 業務を集約してワーキンググループ活動に変更したことや、HOSPnet の導入により、教職員への連絡等情報提供はメール等を活用できており、ミーティングや会議の時間短縮等、業務の効率化を図っている。 時間外勤務の削減にむけ、職員一人ひとりが現在どのような業務を行っているかわかるようメールでの情報共有を行い、業務の進捗状況を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、事業計画に沿った運営方針が策定されている。 実習中の情報管理や安全管理について、学生へ説明し協力を得ている。実施時期や内容のマニュアル化を進める。 時間外勤務の削減に向けた意識を持ち続けて、引き続き努力をお願いする。
III. 教育活動 (小項目 16 項目)	評価 3.8	評価 3.9
	<ul style="list-style-type: none"> 講義は対面型と Zoom による同時双方向型とビデオオンデマンド (VOD) 型の講義を組み合わせで行っている。前期は Zoom による授業は、教員も学生も授業に慣れず学習効果が得られているか判断しづらかった。教員側は、一方的な講義が多かったが、後期はグループワークをしたり、学生への質疑応答を活発にしたり、チャットを活用するなど双方向のやり取りができていた。学生側は、Zoom も対面授業も内容に差はなく学びやすいという意見が聞かれる反面、Zoom だと講義資料がない、重要ところが流れてしまうため、学べているか不安といった意見も聞かれた。VOD は、対面授業、Zoom 授業も同時進行で進むため、計画的に行いにくかった。 臨地実習では COVID-19 の影響で病棟実習時間の短縮や学内実習に変更となった。学内実習では、領域毎に患者を設定しシミュレーション教育を取り入れたことにより実践に近い設定にし、学生個々の学習能力を考慮しながら指導してきた。 入学前学習支援プログラムの導入により、新入生の準備性を可視化し教育支援に活かしている。令和 4 年度入学予定者へも実施予定である。 教員は自主的に研修に参加し自己研鑽している。学内で 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の視聴や課題の提出について、計画的に実施することができない学生へは、引き続きフォローアップをお願いする。 入学前より学習の準備を支援し、看護基礎科目から看護実践科目へとカリキュラムの編成がされている。 6 件の学会発表は素晴らしい。研究指導を受けることができる体制を整えているため、来年度は指導が受けられるように調整をお願いする。

	<p>の授業研修を各教員につき年1回実施した。また今年度は6件の研究を学会で発表した。</p>	
IV. 学修成果 (小項目5項目)	<p>評価 3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア支援担当者が中心となり、小論文対策・面接試験対策についてオンデマンドにより実施した。学生の状況に合わせて、必要時、対面での小論文指導・面接指導を実施した。希望する施設の内定を受けられない学生は10名程度であった。学生個々の特性に合わせて就職先を決定できるよう支援を行った。 1年生に対し基礎看護学実習Ⅰのオリエンテーションとして県内3施設の説明を行い、県内施設のイメージ化が図れるようにした。県内就職率・NHO就職率を維持するため、1月、2月に県内急性期病院、慢性期病院の説明会を実施した。また、3月に開催される関東信越グループ主催就職説明会に参加予定である。 国家試験の合格率は令和2年度98.7%であり100%に達することができていない。1年生は今後の学習が計画的に進められるよう面接を実施、2年生は、臨地実習評価返却時に実習担当者が面接を行い、課題を明確にしている。3年生は国家試験対策を4月から実施し、定期的な模擬試験の結果から抽出した強化メンバーを中心に長期休暇中はオンラインを活用した国家試験対策を実施した。また、担当教員を決定し、学習計画を立て、長期休暇中に計画的に学習が進められるよう学生個々の状況に合わせた指導・助言を行った。 令和2年度の卒業生に対し、ホームカミングデイを開催予定であったが、感染拡大に伴い開催ができなかった。県内施設に就職している卒業生が多いことから、実習指導等を通して、各施設からの情報提供を受けるなどして卒業生の現状を把握できるようにしていきたい。 1年以内での退職者が増加傾向にある。対策として社会人としての基本的な姿勢や仕事への取り組み方など、1年生の時から機会を見て話を行っている。 	<p>評価 3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職に向けて小論文や面接試験対策、また、内定を受けられない学生への支援を丁寧に対応している。 国家試験合格のための取り組みは学年の状況に合わせた指導を実施している。合格した先輩から学習方法のアドバイスの機会を作るなどの学生自身が主体的に取り組めるような工夫も必要と考える。 卒業生の把握は臨床側から情報を得て、把握してほしい。 早期退職を避けるには学校教育の在り方も重要だが、受け入れ先の方策や風土も重要である。教育現場、受け入れ施設双方で情報交換や方策を練ることが重要と考える。
	<p>評価 3.8</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア支援プロジェクトチームを中心に進路・就職に関する支援の企画を立案し運営している。今年度はWebを用いて小論文対策と面接対策の講義を配信し、希望者には個別対応を行い就職試験に臨んだ。また、Webを用いて面接練習を行い、実際の場面を想定して練習できるよう支援した。 千葉医療センターの協力のもとインフルエンザの予防接種、COVID-19 ワクチン接種も希望する学生は接種することができた。 自治会活動などは一部Webを用いて活動し、3学年交流の機会を設けている。 COVID-19 感染拡大防止のため、大教室を40名定員とし、遠隔授業ができるように設備を整えた。また、学生個人がメールアドレスを取得し学習支援が行える体制を整えた。 1月に全学年保護者宛、学業に専念できる体制を整えていただくこと、さらなる感染要望対策の徹底について書面でお知らせした。今後は、WEBでの保護者会開催を検討していく。 	<p>評価 3.8</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されている。また、Webを活用して面接練習や就職説明会を開催しており、支援体制は整備されている。 健康管理を担う組織体制は適切であり、COVID-19 ワクチン接種への対応も迅速に行えている。 課外活動は看護に直結する学習以外で自己の力を発揮できる機会となるため、学生の自主的活動の支援を引き続きお願いする。 学生生活全般に及んで細かい部分まで配慮した対応を検討、実施している。 書面での連絡や必要に応じて保護者と適切に連携できている。WEBでの保護者会開催を検討し、連携の強化を希望する。
V. 学生支援 (小項目10項目)	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染防止対策として、教室あたりの人数の制限や、オンライン授業を増やしている。また、オンラインの授業は、ZOOMの有料回線を利用し、円滑な運営に努めている。また各教室への消毒薬の設置、換気用扇風機の設置を行っている。 COVID-19の感染対策として、訪問看護ステーション、保育園、介護老人保健施設の実習は学内に変更している。また、感染状況に応じ、病棟実習と学内実習を併用して 	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染予防のために新たに消毒薬や換気用扇風機の設置を行い、安全、安心な学習環境の整備に努めている。 防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学生に配信し防災についての意識付けを行ったことは、とて
	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染防止対策として、教室あたりの人数の制限や、オンライン授業を増やしている。また、オンラインの授業は、ZOOMの有料回線を利用し、円滑な運営に努めている。また各教室への消毒薬の設置、換気用扇風機の設置を行っている。 COVID-19の感染対策として、訪問看護ステーション、保育園、介護老人保健施設の実習は学内に変更している。また、感染状況に応じ、病棟実習と学内実習を併用して 	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染予防のために新たに消毒薬や換気用扇風機の設置を行い、安全、安心な学習環境の整備に努めている。 防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学生に配信し防災についての意識付けを行ったことは、とて
VI. 教育環境 (小項目3項目)	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染防止対策として、教室あたりの人数の制限や、オンライン授業を増やしている。また、オンラインの授業は、ZOOMの有料回線を利用し、円滑な運営に努めている。また各教室への消毒薬の設置、換気用扇風機の設置を行っている。 COVID-19の感染対策として、訪問看護ステーション、保育園、介護老人保健施設の実習は学内に変更している。また、感染状況に応じ、病棟実習と学内実習を併用して 	<p>評価 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19の感染予防のために新たに消毒薬や換気用扇風機の設置を行い、安全、安心な学習環境の整備に努めている。 防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学生に配信し防災についての意識付けを行ったことは、とて

	<p>いる。学内実習では、視聴覚教材を活用し、シミュレーションを取り入れ、学習体制を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学時の防災訓練に関しては、学内の消火・防災設備の確認を個人で実施したことにより、主体性も養われている。防災担当教員より、WEBによる防災訓練動画を作成し、学生に配信し防災についての意識付けを行った。 	もよい。
VII. 学生の受け入れ募集 (小項目 3 項目)	評価 4.0	評価 4.0
	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会をオンラインで高校生対象を 5 回、社会人対象を 1 回開催した。指定高校に訪問し、閉校のお知らせと共に入学試験案内、学校説明会案内を実施した。学校説明会は、次年度が最後の入学生となるため人数制限を設け、推薦指定校高等学校や入学実績のある高等学校に案内を出し、ターゲットを絞って開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 募集活動は積極的に適正に実施されている。
VIII. 財務 (小項目 4 項目)	評価 3.5	評価 3.5
	<ul style="list-style-type: none"> 経費削減のための学生参加型の活動を推進し、学生も含めた経費削減の意識改革を行い、成果をあげている。 これまでは無料の Zoom を用いていたが、令和 3 年 10 月より有料版を導入した。経費は増えたが、学生・教員の両方の作業負担が軽減された。 財務監査については年 1 回国立病院機構関東信越グループが会計監査に入っており適切に行われている。また、月次決算について報告を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる授業の導入は仕方なく、有料版導入は学生及び教員にとって負担が軽減され、安定して効果的な学習ができている。経費は負担であるが、今後も有効な活用に努める。 会計監査、財務情報公開は適正に行われている。
IX. 法令等の遵守 (小項目 5 項目)	評価 3.8	評価 3.8
	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 による感染拡大防止対策として自宅学習や学内実習への変更について、千葉県を通して周知される文部科学省・厚生労働省より示される学習内容・方法を遵守し実施している。 職員は国立病院機構の個人情報の管理規程、倫理規程に基づき対策を行っている。また、学生に対しては学生便覧、実習要項等に明記されその都度指導を行っている。実習記録については千葉医療センター個人情報取り扱いの規定に則った申請書等の運用している。 学生個々のメールアドレスを整備し教員のメールアドレスを周知したことで、学生とのコミュニケーションツールを一本化し意見を伝えやすい環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護については、教職員、学生ともに情報管理対策がとられている。 保護者に直接接する機会が少なくなっているが、引き続きメールなどを活用し、自由に意見が言えるように努めてほしい。
X. 社会貢献・地域貢献 (小項目 3 項目)	評価 3.3	評価 3.3
	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施していた公開講座や高校生を対象としたインターンシップは、covid-19 感染予防対策として中止した。次年度は、感染予防対策をとりながら実施できる方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後 WEB などを活用した貢献方法を期待する。

1. 質の高い学生の確保

質の高い学生の確保に向けて2020年度より入学試験体制の見直し、受験者数の増加となり公募制入試や特に一般二次のB日程を設定したことが、受験者数の確保につながったと考えます。今年度は、最後の入試となりましたが168名の受験者確保となり、学生募集活動（パンフレットの作成・配布、説明会の実施など）も充実させたことは受験生に当校への関心を高めることができた成果であると考えます。

2. 学校経営基盤の安定化

COVID-19の影響により、オンライン授業のための設備投資は、学習環境を整えるためには必要な準備であったと考えます。引き続き日々の業務の中で経費削減に努め、学生への意識啓発も行い、経営基盤の安定化に繋げていく努力をお願いします。

3. 教育内容の質の向上

COVID-19の影響で臨地実習や学内での看護技術練習の場所の確保などは大変であったと思います。講義は対面型と同時双方向型、ビデオオンデマンド（VOD）型を組み合わせるなど教育内容の質の充実に向けて工夫していました。

今後も引き続き、入学前のプレ登校、アクティブラーニングの導入、国家試験合格率の向上に向けた支援の継続をお願いいたします。

4. 教員の教育力・管理能力の向上

学会、研修などに参加し自己研鑽が行われ、6件の学会発表は今後の看護教育にも役立つと期待いたします。是非、研究成果を論文として投稿して下さい。今後も看護教育界のためにも尽力いただきたい。

5. 学生支援の強化

キャリア支援プロジェクトチームを中心に進路・就職に関する支援の企画を立案し運営しており、Webを用いて小論文対策と面接対策の講義を配信し、希望者には個別対応を行うなどの学生への支援は充実している。後期は、2年生に対しては、Webを用いた就職説明会を開催し、就職希望の決定に向けての支援を行った。